



# OCFC NEWS

2002 年7月10日号

Vol. 11

## 大川こども & 内科クリニック

### 夏の診療体制 ～夏は空いています。冬の方まで話しておこう。～

例年7月の後半(学校が夏休みにはいると)から9月までは患者さんはそれまでの2/3、冬の半分に減ります。大変空いている時期といえます。この期間にアトピー等慢性疾患についてや繰り返す感染また成長、発達、子供の健康にかんする小さな疑問についても院長とじっくり話して下さい。院長はできれば冬の方まで説明する気でいます。看護婦さんもニコニコとお話好きです。時間の余裕のあるこの時期に十分に理解を深め合いましょう。そしてクリニックの基本姿勢—必要な患者さんに必要

なだけの治療を—を納得して下さい。

8月の土曜日は3日、10日休診、17、24、31日は午前中のみ診療です。その他はお盆の期間を含めて休みません。どうぞご利用下さい。また7月、8月の休日診療予定は次のとおりです。

休日診療	7月7日、20日 8月18日
臨時休診	8月3日、10日
午後休診	8月17日、24日、31日

いずれも午前9時より12時までです。

8月25日は蒲田休日診療所で診療しております。

### 1歳過ぎたら麻疹ワクチン、 70歳過ぎたら肺炎球菌ワクチンを接種しよう。

麻疹はまだ小児にとって恐ろしい病気です。現在でも年間10名前後の死亡者が出るほどです。1歳のお誕生日を過ぎたらなるべく早く接種しましょう。保育園などで1歳未満から集団生活をする場合は、10ヶ月頃からも予防接種しましょう。1歳未満への接種は現在は有料ですが、近い将来補助が受けられるように厚生労働省に働きかけています。また1回接種だけでは不十分なので2回接種となるようにも運動中です。

麻疹と同様に高齢者が肺炎球菌に罹患すると肺炎など重い病気になります。肺炎球菌は高齢者の肺炎の原因細菌として最も多いばかりではなく、ペニシリンなどに耐性となっていることが多く(PRSPといいますが)、治療が遅れることが少なくありません。

それに加えて高齢化による抵抗力の低下(抗体を作るのが下手になります)もさらに条件を悪くしています。そのためにワクチンにより予め抗体を上昇させておくことがとても重要となります。この菌は乳幼児にとっても最も多い原因細菌であり、半数にも及びます。従ってお孫さんの面倒をみているおじいちゃん、おばあちゃんは感染の機会が高いこととなります。仕事を持っているお母さん、子供が病気のと看取けていませんか。預ける前におじいちゃん、おばあちゃんに肺炎球菌ワクチンをしておいて下さい。小さな思いやりが家族の幸福を守ります。OCFCでは肺炎球菌ワクチンを完全予約制で行なっています。

# OCFC INFORMATION

## 感染症 だより

### インフルエンザ最終報告

インフルエンザは4月に7名の発症を診断しましたが、その後は発症しておりません。結局OCFCで診断された方は215名ということになります。全例抗インフルエンザ剤であるシメトリル、タミフル、リレンザで2日以内に解熱しております。入院された方はいらっしゃいません。熱性痙攣は2名にみられましたが、元気に回復されています。

### 感染性胃腸炎もようやく下火に

昨年暮から毎月200名にせまる発症をみていた感染性胃腸炎はようやく減少し始め、4月87名、5月45名、6月25名となっています。月ごとに臨床経過が異なっていて、流行しているウイルスが異なっているようですが現在みられている感染性胃腸炎は発熱・嘔吐・下痢などの症状は軽度になってきています。

### はやくも流行ヘルパンギーナと手足口病

夏風邪の代表格ヘルパンギーナは4月から出現し、6月には30名を越えました。手足口病も5月から流行の気配です。これらはお腹の中のウイルスによって発症し、それにはコクサッキーウイルスやエコーウイルス、エンテロウイルスがあります。複数のウイルスで同じような症状が現れるため、毎年かかったり、一夏に3回かかる人もいます。どんなにお喉が赤くても抗生剤は必要ありません。今はやっているヘルパンギーナは2日間ぐらいの発熱で、解熱した後のほうが喉の水疱や腫れはひどい様です。夏風邪のもう一つの代表格アデノウイルスによる流行性角結膜炎、咽頭結膜炎も少数出現しています。

### 今年は流行猩紅熱

昨年あまり流行らなかった溶連菌感染症(猩紅熱)が今年は大流行です。4月よりコンスタントに発症しており、4月11名、5月15名、6月35名となっております。OCFCでは溶連菌の迅速診断キットで診断した後は、2週間のペニシリンの服用を行っております。内服終了後に検尿と溶連菌の抗体検査を行っております。抗体検査は溶連菌感染後の腎炎発症に深い関わりがあり、必須の検査です。リュウマチ熱やアレルギー性紫斑病の発症にも関係しています。

## その他の 感染症

水痘、おたふくかぜは幼稚園・保育園を中心に流行中です。水痘は自然に治癒する疾患ですが、現在では90%以上の方が抗ウイルス薬であるゾピラックスを服用して治療しております。伝染性紅斑(りんご病)も毎月10名前後発症しておりますが、今シーズンは3週間紅斑が消失しない症例もありました。この症例では原因ウイルスであるパルボウイルスB19のIgM抗体が上昇しており確定診断しております。マイコプラズマ肺炎も5月には4例発症しております。内1例はJR東京病院に入院となりました。5月には5日以上発熱が続くが全身状態が良好な症例が7例ほどありました。検査をしても異常値はなく、なんらかのウイルス感染症と思います。

## 点 滴 コーナ ー

点滴治療された方は4月22名、5月39名、6月38名の合計99名でした。ほとんどの方が肺炎あるいは嘔吐下痢症による脱水でした。今期の特徴は成人で重症の咽頭炎の方が多く、2~3日間の抗生剤の点滴となっております。また食思不振症で点滴の方もいらっしゃいます。重症のヘルペスウイルス感染症の方はCRPが30mg/dlと大変悪化していましたが、抗ウイルス薬の静注で回復しました。72歳の肺炎の方は4日間点滴を行ない、回復しましたが、回復後大学病院に検査入院となりました。いずれの方も現在回復なさっております。

- 一 PRSP : ペニシリンが効かない肺炎球菌をさします。
- 口 従来の肺炎球菌はピクシリンやサワシリンが効いたのですが、これらが無効な耐性菌が増えました。
- メ PRSP にはメイアクトやファロム等の薬剤が有効です。ちなみにブドウ球菌の薬剤耐性株をMRSA、
- モ ヘモフィルスインフルエンザ菌の耐性株をBLNAR, BLPACR といいます。

## 病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは45名で検査9名、外来15名、入院21名でした。

検査紹介では三宿病院に睡眠時無呼吸・いびき1名、医科歯科大学小児科、東邦大学小児科、太田総合病院小児科に脳波検査依頼4名、東邦大学放射線科に片頭痛のCT検査2名、日赤医療センターに大腸の内視鏡の検査を依頼しております。外来紹介では痙攣の方2名を東邦大学小児科に紹介いたしました。1名は痙攣がとまらず救急車で紹介となりました。1歳児の臍ヘルニアは日赤医療センターの小児外科に紹介致しました。難治性の皮膚病や中耳炎の方も多く藤岡皮膚科、池上耳鼻科に紹介致しております。

入院患者さん紹介は21名で肺炎、尿路感染症が主流です。不明熱で東京医科歯科大学小児科、尿路感染症で日赤医療センター、大森日赤、マイコプラズマ肺炎でJR東京病院に紹介入院となっております。成人の方で慈恵医大内科及び東邦大学第1外科にも紹介致しております。

## 院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

4月には日本小児科学会に出席しました。最近の小児医療について多くの情報が報告されました。学会報告レポートは受付で希望者に贈呈します。6月16日のアトピーに関する講演会—リンパ球の反乱。その解決策を探る。(小山台会館)—は多くの参加者があり、盛況でした。ご要望があればまた講演致します。9月の28日午前10時より小山台高校の文化祭で同様の講演をする予定です。院長が書いた易感染性の別冊が用意できました。希望者はお持ち帰りください。5月16日には東京医科歯科大学歯学部で講義致しました。7月9、10日には東邦大学の医学部学生の実習があります。当日受診の方は御協力下さい。

## 診療時間

栄養相談の予約・代表電話で直接予約下さい。  
 大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00～4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30～12:00	14:00～16:00	16:00～18:00
月	一般(小・内)	一般(小・内)	一般(小・内)
火	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
水	代診(小児科)	一般(小・内)	一般(小・内)
木	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
金	一般(小・内)	乳健・予接・ア・慢	一般(小・内)
土	一般(小・内)	13:00～14:00 乳健・予接、14:00～15:00 一般(小・内) 栄養相談 13:00～15:00 30分ずつ(乳幼児、生活習慣病)	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患 慢：慢性疾患

## 電話予約について

当クリニック(OCFC)では患者さんの待ち時間短縮のため予約制を採用しています。できるだけ電話にて予約を取られるようお願いいたします。空き状況をお聞きの後、かけなおして予約をお取り下さい。予約希望時間が詰まっている時は希望時間に近い時間帯をご案内いたします。希望時間が取れない方は直接御来院頂ければ順番にて診療いたします。慢性疾患などで十分な説明をご希望の方は電話で直接お尋ね下さい。

### ■ サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
内科一般	12#	健康診断	17#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
アレルギー/慢性疾患	13#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
隔離感染症	14#	取消	30#				
予防接種	15#	3種混合	21#	水痘	26#		

予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤っていけば1#で行って下さい。

## 院内機器

新しい検査機器: チンパノメトリー(中耳炎などの耳の炎症を調べる機械です)

院内設備: 隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)、オゾン空気清浄・防臭装置(2台)

検査機器: レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO 測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター(点滴施行患者さんモニター用)

## 患者さん 質問箱



### Q

私の子どもは気管支喘息で抗アレルギー剤で治療を受けています、お薬を飲む以外に体を丈夫にして喘息を起こさせない方法はあるでしょうか。

(なんとなく薬を飲ませ続けていることに抵抗を感じている母)

### A

アトピーはIgE抗体の存在により発生する不愉快な生体反応ですが、実際の症状はヒスタミンやロイコトルエンといった物質が症状を現す体の部分に働くことによります。現在気管支喘息の治療の主流は抗アレルギー剤の一つであるロイコトルエン受容体拮抗剤と吸入ステロイド薬による治療となっております。これらは従来のキサンチン製剤(テオドールなど)とβ刺激剤の吸入(メプテンなど)による管理にとっかわりつつあります。β刺激剤の吸入薬はなんとといっても突然死の問題があり使用には十分な注意が必要です。(もちろん注意を守って使用すれば大変有効で安全なお薬です。)

発作が管理できていれば吸入ステロイドは1日1回に減らせ中止することも可能ですが、ロイコトルエン受容体拮抗剤はアレルゲンがハウスダストやダニの場合(これが大部分ですが)根本的な治療ではありませんので長期に服用する必要があります。今後は原因物質であるIgE抗体が作られなくなるような治療法の開発に進むと考えられます。

さて、ご質問のお薬以外の治療法ですが体の鍛錬と食事療法があると思います。体の鍛錬については従来から乾布摩擦、冷水シャワー(温水ではないという程度の意味です。決して氷水ではありません。)水泳などがあります。これらはいずれも自律神経の交換神経の働きを良くする意味があります。交換神経からは気管支を拡張させるアドレナリンが分泌されますし、また発作を起こすロイコトルエンの産生も抑制します。自律神経の緊張は自分の体からのステロイドの分泌も促します。水泳は特に顔を水につけた状態が呼吸機能を改善させるようです。乾布摩擦はアトピー性皮膚炎には不向きですが、暖かい今の時期から、水をあびたり水泳をしたらよいでしょう。乾布摩擦は毎日15分ぐらい続けて下さい。食事はバランスのよい食事をするのが一番ですが、肉食よりは魚肉のほうがよいと言われています。それは肉、乳製品、大豆に含まれるリノール酸がロイコトルエンの産生を促すため、魚肉に含まれるリノレン酸はその作用がありません。また、食用色素の中にもアレルギーを助長させるものが含まれていると言われています。アトピー症状を出やすくすると言われる食品もあります。ナス・トマト・ゴボウ・ソバ・またイカ・タコ・アサリなどはアレルゲンではなくてもアトピー症状を出やすくします。

また、心のあり方も大切です。イライラしたり緊張していると末梢神経から神経伝達物質が分泌されます。これらはヒスタミンやロイコトルエンと類似の働きがありアレルギー反応が誘発されます。心穏やかに生活することが大切ですがこれが一番難しいと院長は考えています。(OCFC 院長)

偏照院駐車場の改良なる。  
~どうぞご利用下さい~

OCFC より50m 蒲田よりに偏照院駐車場があります。いままではばらばらであった駐車スペースを一ヶ所に集め、4台分のスペースで3台の駐車場としました。これまでは狭くていれ難く、乗降にも不便でしたが、拡張することで改善できました。どうぞご利用下さい。駐車はOCFC のマークがあるスペースをお願いします。(下記案内図参照↓)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC  
Okawa Children & Family Clinic  
大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00

土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約  
専用

03-3758-0099

代表  
番号

03-3758-0920

E-mail: ocfc@jeans.ocn.ne.jp

## 案内図



東急多摩川線 矢口渡駅前